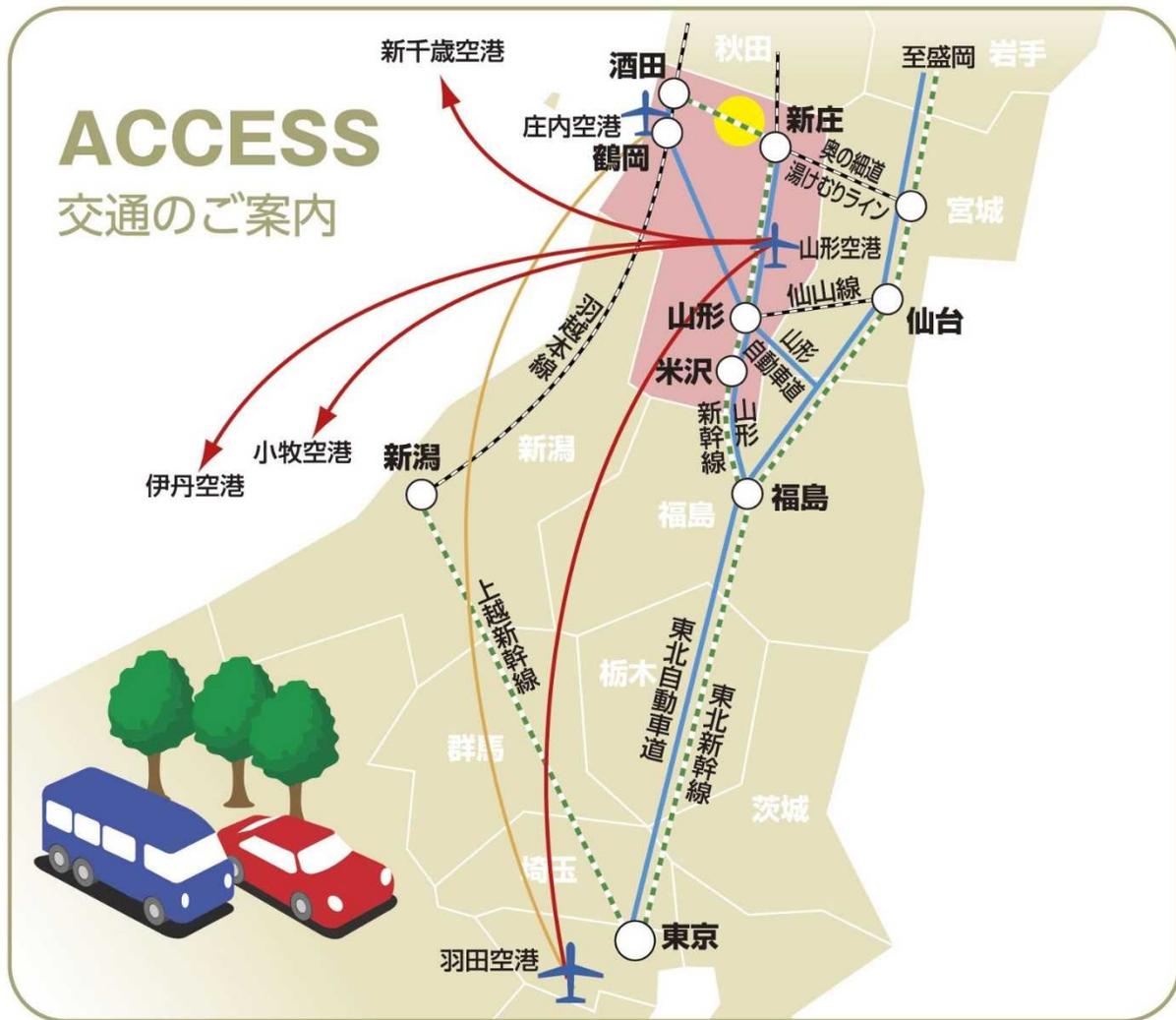




# 産地からみた地域産品の流通について

山形県鮭川村

# 鮭川村の概要



## ○ 位置

鮭川村は、山形県の北部、最上圏域北西部に位置し村の中央部を南北に国交省「水質が最も良好な河川」に選ばれている清流鮭川が流れる農山村です。

## ○

人口：4,076人  
世帯：1,341世帯  
面積：122.14km<sup>2</sup>  
(令和2年7月末時点)

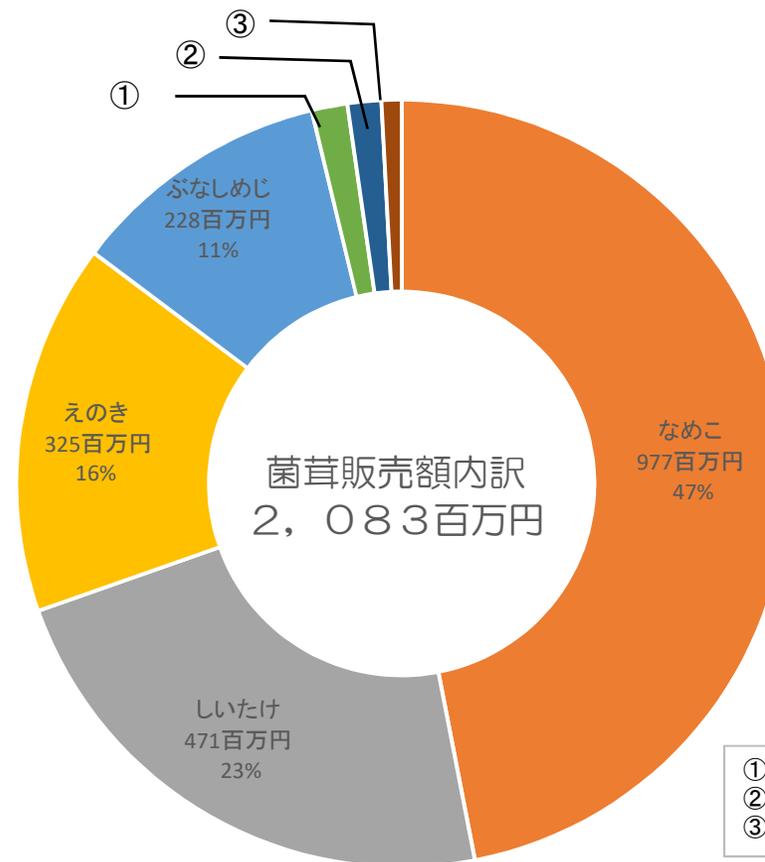
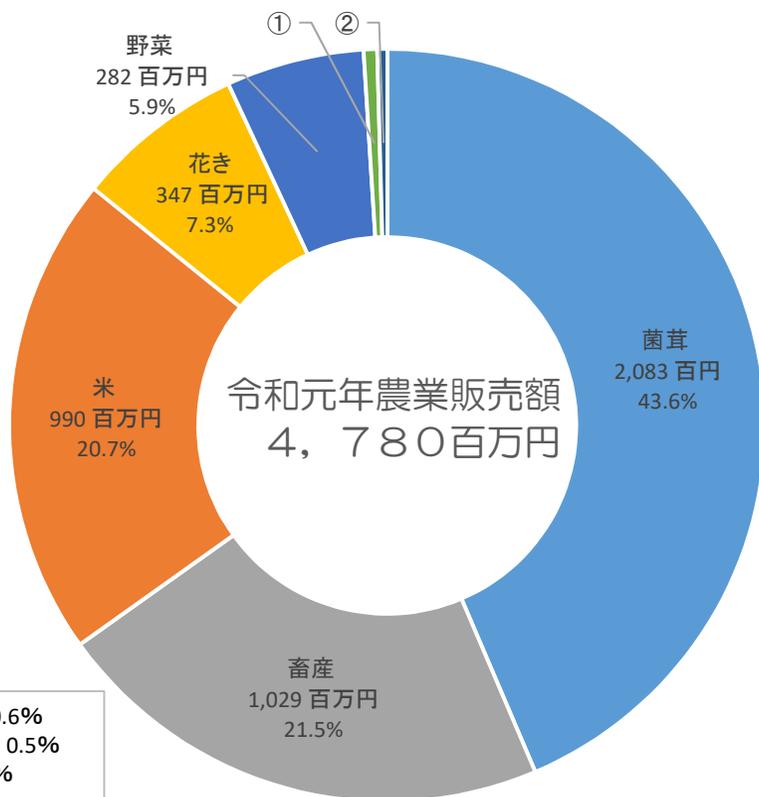
## ○

農業産出額：4,780百万円  
農業法人数：21経営体  
第1次産業従事割合：26.6% (平成27年)

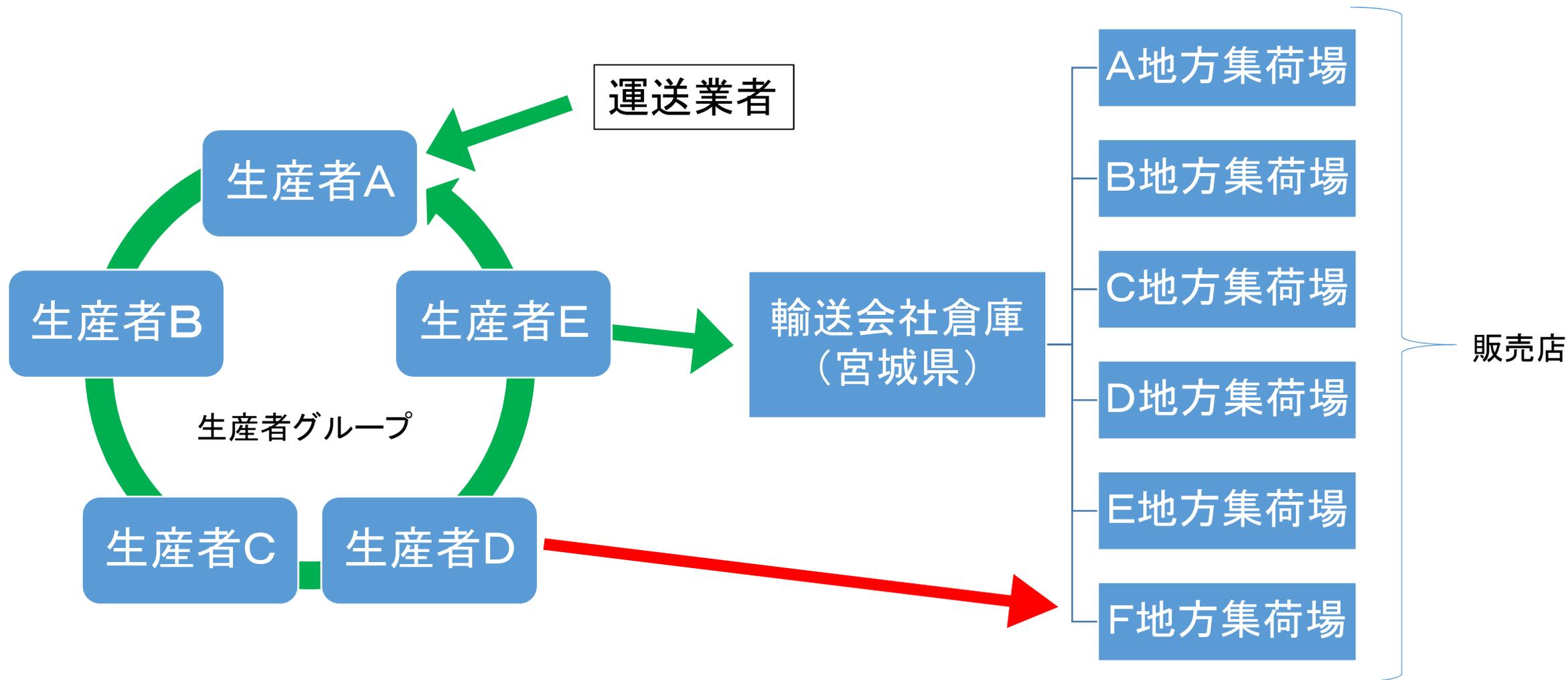
## ○ 交通

東京から約480km山形新幹線で3時間40分、その後車で20分合計約4時間  
東北・東北中央自動車道で約7時間

# 鮭川村の農業の状況



# 菌茸生産者の出荷形態（例）



# JAの出荷状況（8割程度東京出荷）

菌茸を東京に輸送する場合（片道約7時間）

AM9：30 集荷場（生産者搬入）



AM11：00 トラック積み込み



PM8：00 東京市場着  
翌日店頭販売



## 花き（バラ）の出荷状況

バラについては、生産者がそれぞれ直接市場へ出荷している。

（りんどうについては、約54%が系統出荷で、約46%は生産者が直接市場へ出荷している。）

市場のせりに合わせ、火曜日・木曜日・日曜日の週3回の出荷を行っている。

出荷の割合は、市場が7割、市場外（仲卸・スーパーなど）が2割、自社販売が1割となっている。

市場への出荷の内訳は、東京（大田市場花き部）が4割、大阪（なにわ花いちば）が4割、地方市場（福島、埼玉、栃木、茨城、静岡など）が2割となっている。

## 出荷の形態

### ・段ボール箱での出荷

バラの出荷のうち、約72%が段ボール箱での出荷となっている。段ボールのサイズは、90cm、70cm、50cmの3種類（立箱、湿式）を使用している。

バラの規格は、80～40cmの10cm刻み、5種類での出荷となっている。トラックに立て積みして出荷している。

90cm（規格80・70cmのバラ）      70cm（規格60・50cmのバラ）      50cm（規格40cmのバラ）

### ・容器（バケツ・台車）での出荷

バラの規格については同一であるが、容器（バケツ）20個または40個を台車に乗せ出荷する。



段ボールでの箱詰め状況



容器（バケツ）での保管状況

# バラの出荷形態

段ボール箱	容器（バケツ）
複数のサイズの箱が必要 箱の組立て、箱への詰込みに労力を要する （収穫し冷蔵庫に保管し、出荷に合わせ箱の組立て・詰込み） 切り花を保管する冷蔵庫の面積が少なく済む	容器への詰込みが容易 台車が必要となる （収穫し、規格別に容器に入れ冷蔵庫に保管） バケツに入れ冷蔵庫に保管するため冷蔵庫の大きさが必要となる
1台のトラックで輸送できる本数が多い 箱の積上げが可能（2段～3段積み）	1台のトラックで輸送できる本数は箱に比べ少ない
市場での転送は容易	市場での転送はしにくい
最終的に箱の廃棄が必要となる	容器は使いまわしが可能となるが、現在は回収が課題となっている

輸送の際は、段ボール箱・容器いずれも立て積みで行っている。品質を維持するため立箱を採用している。横箱の場合、切り花の切り口が完全に水に浸かった状態を維持できるか不安が残る。（切り口が水から離れると花持ちが悪くなるほか、市場で受け入れてもらえない場合もある。ただし、水が必要でない切り花もある。）



段ボール詰めの出荷状況



容器（バケツ）詰めの出荷状況



段ボール詰めと容器詰めの出荷状況

## 輸送について

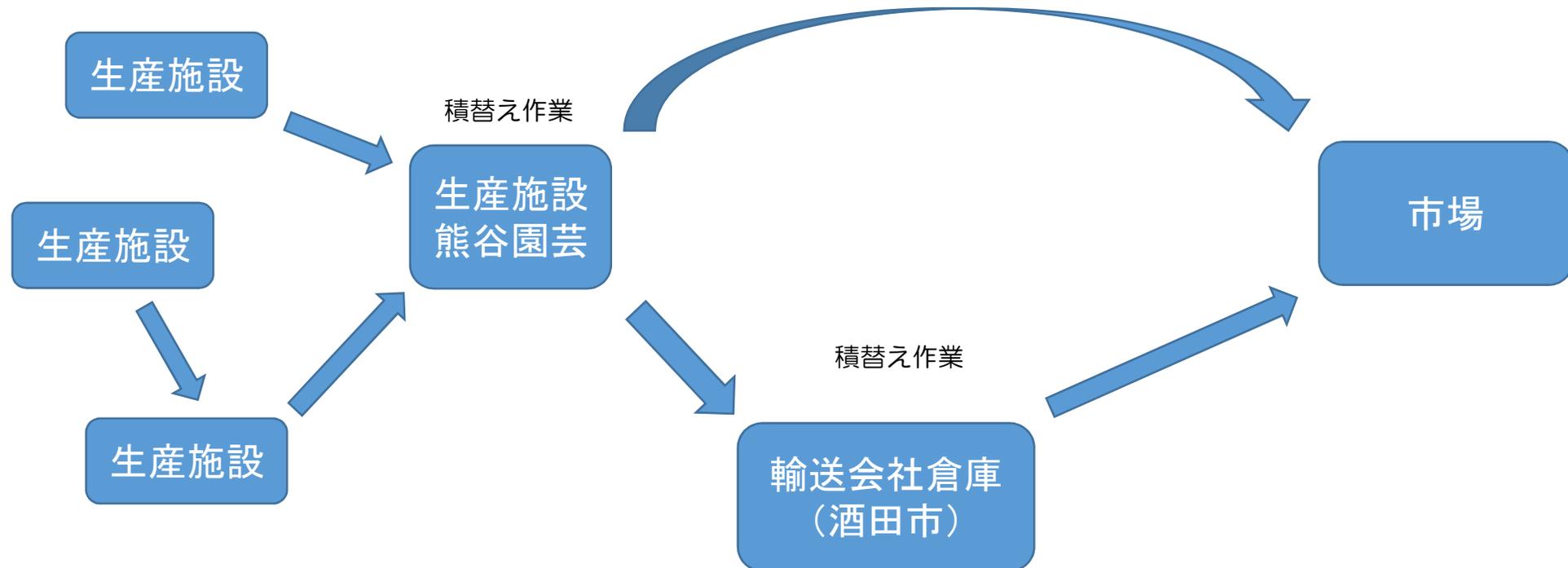
輸送については、個々の生産者が輸送業者がそれぞれ委託し、集出荷を行っている。

村内のバラについては、生産者が2社のため、同一の業者と契約しており10t車（冷蔵車）で輸送している。（夏は冷却、冬は凍結防止）

集荷に際しては、村内や近隣市町村から集荷し、（有）熊谷園芸で積替えを行い出荷している。

市場の状況等により、産地から直接市場へ輸送される場合と輸送会社倉庫に運搬し、一時保管し積替えのうえ市場に輸送する場合がある。

- 東京方面への輸送は、東北中央自動車道・東北自動車道を利用し、所要時間は7時間程度
- 関西方面への輸送は、北陸自動車道を利用し、所要時間は10時間程度



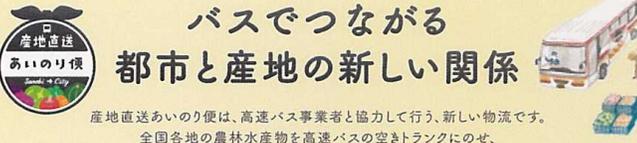
# 貨客混載事業について



JA全中 農林中央金庫 三菱地所 ECOZZERIA UPQ

人を想う力。街を想う力。

JAグループと三菱地所グループは、都市と産地、消費者と生産者を繋げるプロジェクトを通じて、日本の第一次産業を応援していきます。



## バスでつながる 都市と産地の新しい関係

産地直送あいのり便は、高速バス事業者と協力して行う、新しい物流です。全国各地の農林水産物を高速バスの空きトラックにのせ、都市に直送するサービスです。

### 産地直送あいのり便とは



「希少な農産物」や「伝統野菜」、「朝どれ野菜」などの農産物の多くは、出荷量が少ないことやコストの問題などにより、通常の物流ルートで東京まで運ぶことができませんでした。高速バスの空きトラックを活用した「産地直送あいのり便」では、全国各地の特色ある農産物を、大都市にしながら、お手軽にお求めできるようご提供します！

### 産地直送あいのり便サービスのメリット

**生産者にとって**

魅力ある農産物の販売機会の拡大

魅力ある農産物の販売機会の拡大  
販売数は確実にアップします

**消費者にとって**

魅力的な野菜・果物との新たな出会い

魅力的な野菜・果物との新たな出会い  
まさにバスで生産者がくぐることも！

**最新情報 配信中!!**






さらに詳しい公式サイト  
バスあいのり  
<http://www.ainoribin.com>

## 農林中央金庫と三菱地所は 花き生産者を応援しています。

各種イベントの自粛により、花が行き場を失っています。需要喚起にご協力をお願い致します。

さげわ  
山形県鮭川村産  
くまがい えんげい  
熊谷園芸のバラ  
**1本プレゼント!**

【配布期間】	7.27日 - 8.2日	11:00 - 19:00
	8.17日 - 8.21日	11:00 - 19:00
【配布本数】	1日あたり約840本 お1人様1本まで。配布次第終了となります。	

★ お配りするバラは、山形県鮭川村から高速バス「産地直送あいのり便」に乗せて運んでいます。



# 産地の流通の現状

- 農産物の出荷はトラックによる輸送で行われている。
- 生産施設が点在し、集荷に時間を要している。
- 生産者や作目ごとに輸送業者と独自に契約し出荷している。
- 流通容器が多様（特に花きについては品目や企画が多様化）である。
- トラックの積載率が一定にならない。
- 気象条件による影響（特に冬期間の降雪による影響）。

# 産地（生産者）から見た今後の課題

○流通容器や台車の規格の統一

—流通容器の規格の統一

○地域での集荷の効率化

—点在する生産施設のため、効率的な集荷システムの構築

—トラックの積載率の向上

○輸送時間の短縮

—高速交通網の整備

# 産地として

## ○生産者

- ・より高品質なものをより良い状態で消費者に届けるため取り組んでいる。

## ○村

- ・地方の農業を維持させる（担い手・後継者の確保、雇用の創出）。
- ・意欲ある生産者の支援（生産規模の拡大、品質の向上）。



流通の課題改善に向けてサプライチェーン全体での取り組みが必要。